

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	キリスト教と文化研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. キリスト教主義教育を大学教育の現場で実現するための調査・研究を行う。	→学内のキリスト教関係授業を支援する研究プロジェクトを発足させる。	B
2. キリスト教と文化とが会う問題をあつかう学際的な研究プロジェクトを推進する。	→学際的な共同研究プロジェクトを複数実施し、その研究成果にもとづいて研究紀要等を年1回発行する。	B
3. グローバル化された現代社会が直面する諸問題を啓発するための企画を実施する。	→現代社会が直面する問題に関するフォーラムを年4回以上開催する。	B
4. センター研究活動の成果を、迅速かつわかりやすく学内外に周知する。	→センターの活動・研究をデジタル化して公表できる体制を構築する。	B
5. 日本におけるキリスト教平和学の情報発信・交換の拠点となる。	→他のキリスト教関連団体、平和活動団体等と共同した企画を年1回実施する。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

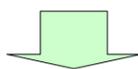
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・方針) キリスト教と文化研究センター（以下、RCC）設立の趣旨は、センター規定に「キリスト教と人間・世界・文化・自然の諸問題に関する総合的な調査・研究」と関西学院大学の「キリスト教主義教育の内実化」に寄与することを目的とする。本学はキリスト教宣教師によって設立され、神学部を有し、また各学部には宗教主事・宣教師を置いて、キリスト教主義教育を積極的に推進している。キリスト教主義にもとづく大学として、キリスト教の視点から学内外に研究機関として貢献することが必須である。また、そのような研究はキリスト教の領域に逼塞するのではなく、総合大学たる関西学院大学に設置された研究センターとして、必然的に学際的な研究を志向しなければならない。 (現状説明) 2005年度から取り組んだ「キリスト教と平和構築」をめぐるプロジェクトに取り組み、一貫して、キリスト教の視点から、現代社会における平和の問題に学際的に取り組んだ。その為の出版事業とこれに関連する講演会をおこない、平和を考える研究拠点として具体的な活動を通じてその理念・目的を果たしている。また、このような平和への取り組みは、他のキリスト教関係の大学研究機関には例をみないものであり、特徴的なものである。また、いのち・貧困等の現代社会における深刻な問題にこたえるため「聖典と今日の課題」プロジェクトが実施されている。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) RCCの活動は調査・研究の実施と、その調査・研究に関連するフォーラム・講演会を行って、その問題意識を広く学内外に周知・啓発することによって成り立っている。昨年は5回の機会（フォーラム2回、ミニフォーラム1回、主催講演会2回：ただし同一内容で西宮・東京で開催）を行ってその目的を果たした。また、その内容はニューズレターに掲載されて、広く配布されていた（2009年9月・2010年4月に刊行）。これをセンターHPからも閲覧が可能としている。
☆ 小項目0.0.3	RCCの運営は、任期2年のセンター長・副長・主任研究員とセンター専任教員（センター副長）で行っている。これまでは任期をまたがる研究テーマや研究プロジェクトを設定されることがあったが、2009年下期に、研究体制全体を見直し、任期2年を単位に研究内容・研究経費を検討することとした。2010年度は2年任期の途中であるので、本年度を経過期間とし、2011年度にむけて次期の研究体制を整えている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	「キリスト教と平和構築」プロジェクトの成果として、キリスト教にとどまらず政治・経済・文化・社会の諸項目を網羅した『キリスト教平和学事典』（教文館、9月）を上梓し学外からも好評を得ている。また、本事典刊行を機に、広島平和文化研究センター代表・スティーブン・リーパー氏を招待して、西宮と東京で講演会を開き、他センターと連携をはかるとともに、関東でもRCCの研究活動を広く周知することができた。
★小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



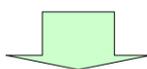
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	「キリスト教と平和構築」プロジェクトをより展開するため、2009年度下期より新しい研究プロジェクトを摸索し、多文化・多宗教的な平和共存への方途を探究するために多文化・多宗教都市である神戸をフィールドとする研究プロジェクトを2010年度から発足させた。
★小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	RCC設立の趣旨に「キリスト教主義教育の内実化」が挙げられていたが、もっぱら総合コース開講及び一般向けのキリスト教講座実施という実践面の寄与にとどまった。新基本構想にもとづいて、本学におけるミッション・建学の精神の学内での浸透・展開が重要な課題となり、大学においてこの課題に応えるために、キリスト教主義教育の強力な推進に資する教育・研究活動が求められている。
★小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	2010年度に、キリスト教主義教育を主題とする研究プロジェクトを発足した。キリスト教主義をめぐる研究は、RCCのいま一方の目的である学際的な諸課題とは異なって、継続的に、また長期的視野の下で実施されるべきである。今後、年次的な計画を立案し、2010年度下期から具体的な研究活動をおこなう。
★小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

○キリスト教主義教育を大学教育の場で実践することを目指し、その一環としてさまざまな研究プロジェクトを運営し、その成果を社会に還元するという2009年度に設定された目標は本来の目標を達成することに大きく寄与するものと考えられます。総論はそれでよいとして、各論をいかに考え実行するかということが困難な問題でしょう。今後の活動が期待されます。

○「キリスト教主義教育の内実化」という問題は、規模が大きくなるほど難しいですが、それを改善点すべき事項においたことを評価します。ただ、キリスト教と文化研究センターでも悩んでいると思いますが、具体的方法が見つかりにくい。その方策として長期視野をもった年次計画という長期の計画も評価できます。ミッションの完遂が期待されます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
